

SOURCES OF JAPANESE MODERN

ERN: THE TAISHO-SHOWA ERAS



時代を鮮やかに彩った
ロマンティック・モダン、

大正昭和 の 原泉

国立美術館
コレクション
ダイアローグ

2025.

2026.

11.15(土)—2.15(日)

*会期中、一部展示替えがあります

前期 11月15日(土)—12月25日(金)／後期 1月6日(火)—2月15日(日)

◎開館時間 | 午前10時—午後6時(入場は午後5時30分まで)◎夜間開館日 | 2025年11月21日[金]、12月19日[金]、2026年1月16日[金] 午後8時まで開館(入場は午後7時30分まで)◎休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌平日:2025年11月25日[火]、2026年1月13日[火]) 年末年始 2025年12月26日[金]—2026年1月5日[月]◎主催 | 岐阜県美術館 国立工芸館、国立アトリエ・センター、岐阜新聞社 岐阜放送◎後援 | NHK岐阜放送局 杉浦非水(トモエ石庵)(部分) 1926年 国立工芸館蔵 前期展示(11/15-12/25)

大正昭和の 源泉

国立美術館
コレクション
ダイアローグ



この度、岐阜県美術館では国立アートリサーチセンターによる国立美術館の収蔵品活用事業「コレクション・ダイアローグ」から国立工芸館との協働により「大正・昭和の源泉展」を開催します。国立工芸館は1977年の開館以来、工芸・デザイン専門の国立美術館として国内外の工芸・デザイン作品を収集・調査研究し、多種多様な魅力を発信し続けています。本展では国立工芸館の豊かなコレクションのうち、特に大正・昭和初期に流行したスタイルに焦点をあてています。ジャポニスム、いわゆる日本趣味の影響を受けた19世紀末のアル・ヌーヴォー、20世紀初頭のアル・デコ様式を受けて、日本では自国固有の美意識と結びつき、大正ロマンや昭和モダン・流行を生み出した、人々の日常に活気を与えました。当時の世相を反映したアクセサリーや家具、金属工芸やガラス工芸、雑誌、ポスターなどは今なお輝きを失っていません。国立工芸館所蔵の工芸・デザイン作品152点を中心に、岐阜県美術館所蔵品から絵画、工芸作品をあわせてご紹介いたします。

当時の紳士、淑女が愛した工芸からファッションまで、時代を鮮やかに彩ったロマンティック・モダンをお楽しみください。

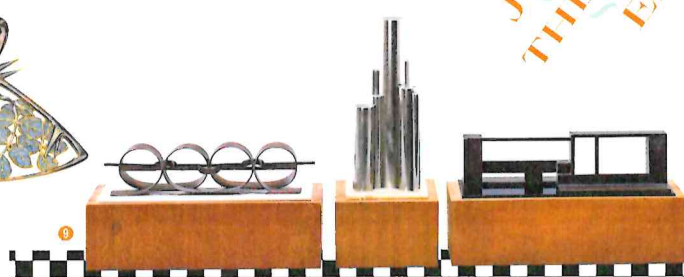
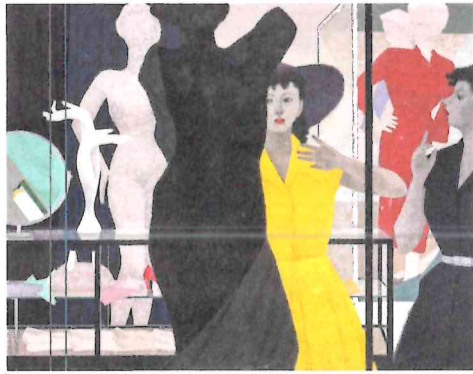


SOURCES
JAPANESE
THE TAISHO
ERAS



観覧料 一般1,000円[900円]、大学生800円[700円]、高校生以下無料

*[]内は20名以上の団体料金 *身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、特定医療費(指定難病)受給者証または登録証の交付を受けている方とその付き添いの方(1名まで)無料 *ミラリオIDが利用できます



関連イベント

2025年11月29日(土) 13:30-15:00

記念講演会「国立工芸館の工芸とは！」

講師：唐澤昌宏(国立工芸館館長) 場所：講堂(無料、事前申込み不要、定員170人)

2026年1月17日(土) 13:30-15:00

美術講座「大正・昭和のロマンティック・モダン・ファッションと文芸」

担当：齋藤智愛(岐阜県美術館学芸員) 場所：講堂(無料、事前申込み不要、定員170人)

2026年2月7日(土) 13:30-15:00

美術講座「大正ロマンとモダン：金工の不思議な魅力を探る！」

担当：正村美里(岐阜県美術館 副館長兼学芸部長) 場所：講堂(無料、事前申込み不要、定員170人)

2026年2月15日(日) 13:30-15:30(予定)

コレクション・ダイアローグ・クロストーク&ワークショップ

クロストーク 13:30-14:30 ワークショップ 14:30-15:30

トーク登壇者：可児光生(美濃加茂市民ミュージアム 館長)

大谷吾吾(国立アートリサーチセンター 作品活用促進グループリーダー、東京国立近代美術館 副館長)

日比野克彦(アーティスト、岐阜県美術館 館長、東京藝術大学 学長)

*ワークショップについては後日Webサイトなどで情報公開

場所：多目的ホール、館内(無料)

2025年11月21日(金)、2026年1月16日(金) 18:00-18:45

夜間開館ギャラリートーク

場所：展示室3(事前申込み不要、要観覧券)

2025年11月30日(日) 14:00-15:30

大正・昭和「モードの源泉」×ナンヤローネ アートツアー

担当：岐阜県美術館教育普及係

場所：多目的ホール、展示室3(事前申込み、要観覧券)

2026年2月1日(日) 10:30-12:00、13:30-15:00

大正・昭和「モードの源泉」×ナンヤローネ アートアクション

担当：岐阜県美術館教育普及係 場所：多目的ホール(無料)

2025年12月14日(日)、2026年1月11日(日)各日14:00-(40分程度)

パイプオルガン定期演奏会 場所：多目的ホール(無料)

*事前申込みの有無、申込み方法など詳細については当館のWebサイトをご確認ください。



岐阜県美術館
THE MUSEUM OF FINE ARTS, Gifu

〒500-8368 岐阜市宇佐4-1-22 Tel.058-271-1313/Fax 058-271-1315 <https://kenbi.pref.gifu.lg.jp>

交通案内 ■公共交通機関利用の場合■JR東海道本線西岐阜駅南口から徒歩(約15分)／岐阜バス(錦島市橋線)JR岐阜駅前[6番乗場]または名鉄岐阜駅前[1番乗場]から「市橋」行きに乗車(約15分)「県美術館」下車／岐阜市コミュニティバス：西ぎふ・くるくるバス「県図書館・美術館」下車[1日7便、市橋地区循環]／すまいるバス「県図書館・美術館」または「県美術館北」下車[1日9便、三里・本荘地区循環]■タクシー利用の場合■JR岐阜駅または名鉄岐阜駅から乗車(約10分)JR西岐阜駅から乗車(約5分)■自家用車利用の場合■名神高速道路 岐阜羽島ICから県庁方面へ北進約10km／東海北陸自動車道 岐阜各務原ICから国道21号線へ西進約10km／東海環状自動車道 岐阜ICから県道77号線を南進約10km
*無料駐車場有、「おもいやり駐車場」(美術館北東)6台有

国立工芸館
National Crafts Museum

Collection DIALOGUE

●ルネ・ビュトー《幾何学文花瓶》1935-40年頃 国立工芸館蔵
撮影：エス・アンド・ティ・フォト ●杉浦非水(トモエ石松)1926年 国立工芸館蔵 前期展示(11/15-12/25) ●長縄士郎(店社)1952年 岐阜県美術館蔵 ●作者不詳「イヤリングとイヤリング掛け」1920-30年代 国立工芸館蔵 撮影：野村知也 ●各務三三(三輪 銘折)1929年 岐阜県美術館蔵 ●ルネ・ビュトー《花模様大皿》1920-25年頃 国立工芸館蔵 ●内藤春治(壁面への時計)(部分)1927年 国立工芸館蔵 撮影：藤川浩 ●ルネ・ラリック《ブローチ 森の木と甲虫》1900年頃 国立工芸館蔵 撮影：アローアートワークス ●杉田米堂《用途を示すせぬ美の創案》1930年 国立工芸館蔵 撮影：藤川浩 ●竹久夢二《少年》1930-34年頃 国立工芸館蔵 撮影：斎城卓 後期展示(1/6-2/15)